

日本脳炎の予防接種を受けるにあたって(保護者の方へ)

(1) 病気の説明

日本脳炎は日本脳炎ウイルスによって感染しますがヒトから直接ではなくブタなどの動物の体内で増殖した後、そのブタを刺したコガタアカエイカ(水田等に発生する蚊の一種)が人を刺すことによって感染します。

東アジア・南アジアにかけて広く分布する病気です。

日本での流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。飼育されているブタにおける日本脳炎の流行は毎年6月から10月まで続きますが、この間に地域によっては約80%以上のブタが日本脳炎に感染しています。

以前は小児、学童に発生していましたが、予防接種の普及などで減少し、最近では年間数名の予防接種を受けていない中高齢者を中心に患者が発生しています。

症状は6～16日間の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれん等の症状を示す中枢神経系障害(脳の障害)を生じます。感染者のうち100～1,000人に1人が脳炎を発症すると報告されており脳炎を発症した場合、約20～40%が死亡に至る病気で、神経の後遺症を残す人もいます。

(2) 乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンについて

乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンは、ベロ細胞(アフリカミドリザル腎臓由来株化細胞)で増殖させて、得られたウイルスを接種し、ホルマリンで不活化(感染性を失くすこと)して製造されたワクチンです。このワクチンは現在、定期の第1期予防接種に使用可能とされています。

(3) 接種間隔

- ・ **初回接種** (2回) 6日～28日までの間隔をおいて2回
- ・ **追加接種** (1回) 初回接種終了後、概ね1年後

(4) 接種を受けられない場合

- ・ 明らかに発熱している方
- ・ 重い急性疾患にかかっている方
- ・ このワクチンの成分でアナフィラキシー様症状をおこしたことがある方
- ・ その他、かかりつけ医の医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方

(5) 接種後の注意

- ・接種後 30 分間は、ショック・アナフィラキシー様症状が起こることがあるので、医師とすぐ連絡が取れるようにしておきましょう。
- ・接種後 1 週間は体調に注意しましょう。接種後、腫れや機嫌が悪くなった場合は医師にご相談ください。
- ・接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこするのはやめましょう。
- ・接種当日は激しい運動は避けてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

(6) 副反応

- ・**通常みられる反応** 日本脳炎ワクチンの接種後の副反応の主なものは発熱、たんが絡むような咳、鼻水、接種局所の発赤・腫脹(はれ)、しこり、発疹などが比較的高い頻度(数%から数十%)で認められます。通常、数日以内に自然に治るので心配の必要はありません。
- ・**重い副反応** 極めてまれにあらわれる副反応としてなどとしてショック・アナフィラキシー様症状(じんましん・呼吸困難など)、ADEM、脳炎、けいれん等の発生も否定できません。予防接種を受けたあと、接種局所のひどい腫れ、高熱、ひきつけなどの症状があらわれたら、医師の診察を受けてください。お子さんの症状が予防接種副反応報告基準に該当する場合は、医師から昭島市長へ副反応の報告が行われます。また予防接種による脳炎や神経障害と認められた場合は予防接種法に基づき、健康被害救済の給付対象となります。

詳しくは厚生労働省の「日本脳炎の Q&A」をご覧ください。

(<http://www.mhlw.go.jp/kenkou/nouen/index.html>)